

第2次石岡市男女共同参画基本計画後期実施計画(素案)に対するパブリックコメントの実施結果

【回答区分】 ア 計画案に意見を反映するもの
 イ 意見の趣旨を踏まえて取組を推進するもの
 ウ 今後の参考とするもの

No.	意見内容(要約)	回答区分	回答(案)	修正案	関連項目
1	「若い世代ほど男女共同参画意識が浸透している傾向であり、今後も継続した取組が重要となります。」なぜ、若い世代ほど意識が浸透している傾向に対して、継続した取組が必要なのか、理由を教えてください。	ア	ご意見ありがとうございます。これから将来を担っていく若い世代に男女共同参画に対する意識が浸透している傾向が今後も維持続けられることが重要だと考えます。そのため、継続して取り組んでいく必要があると考えます。	次のとおり計画を修正します。 若い世代ほど男女共同参画意識が浸透してきていますが、まだ十分ではありません。	3 前期実施計画の評価 (2)基本目標ごとの状況 基本目標1あらゆる分野での女性の活躍促進
2	「男は仕事、女は家庭」という考え(固定的役割分担意識)に賛成しない市民の割合が、目標値に掲げられている。「賛成」という考え・思想は、個々の自由であると思うが、この考え方の割合に対して、数値目標を定める目的はなんなのか? 「反対」と答える人がこの目標を見た時に、「自分の思想・考え方は、市の目標達成に反してしまうのか?」と、疎外感を覚えるようになってしまった。考え方は個々の自由だし、考え方も、実際の行動は、分けて考えた方がよいのではないかと思います。	ウ	ご意見ありがとうございます。個人の考え方や思想は、個々の自由であると考えております。第2次石岡市男女共同参画基本計画では、あらゆる分野での女性の活躍促進を基本目標としております。女性活躍を阻害する要因として考えられる「男は仕事、女は家庭」という性別による固定的な役割分担意識や男性中心の社会制度・慣行を見直していくことが重要と考えております。そのためには、市民に対する男女共同参画の理念や目的の周知、男女共同参画社会形成の意識の啓発活動に取り組む必要があり、数値目標として定めています。 国の第5次男女共同参画基本計画112頁他もご参照ください。 https://www.gender.go.jp/about/danjo/basic_plans/5th/pdf/2-10.pdf		基本目標1 成果指標 「男は仕事、女は家庭」という考え(固定的役割分担意識)に賛成しない市民の割合
3	「男女がともに働きやすい就業環境の整備」 「生涯にわたる男女の健康支援」 今回、性的少数者について新たに明記される中で、男性・女性どちらも自認されていない市民が、疎外されてしまう文言のように感じた。男性・女性・またその他の性・全ての人を、包括するような名称への変更について、検討していただきたい。	ウ	ご意見ありがとうございます。 ご意見は、第2次石岡市男女共同参画基本計画の基本目標、基本施策の内容に関することとなります。 本市の基本計画は、男女共同参画基本法に基づく国の男女共同参画基本計画に基づいた、国の法的ベースに沿って策定しております。 また、今回の後期実施計画の内容は、第2次石岡市男女共同参画基本計画の基本目標、基本施策に基づき策定する計画となっております。		基本目標2「男女がともに働きやすい就業環境の整備」 基本目標4基本施策「生涯にわたる男女の健康支援」
4	「市民に向けて、性的少数者に対する正しい理解と支援を広めるための取組が求められますが」、性的少数者の支援者に対する言葉かけのように聞こえた。これだけではなく、LGBTQ当事者に対する支援や、働きかけについて、具体的に明記していただきたいと思う。(例えば、当事者の声をきく、当事者に対する調査を実施する、ニーズを把握する。当事者が市の窓口で相談できる体制をとる、など。実際に、市内施設のトイレの現状や課題、LGBTQ当事者に対する職場の対応等、石岡市における様々な課題が、明らかになると思う。)	ア	ご意見ありがとうございます。市民意識調査において、LGBTQの言葉の意味を知っている市民の割合は58.6%でした。33.1%は知らないという回答をしています。言葉の意味は知っていても、実際の当事者への理解を深めることが必要だと考えます。そのため、表現を修正します。 また、一覧表8について、事業概要を修正しておりますのでご参照ください。	次のとおり計画を修正します。 性的少数者(LGBTQ)の方の多くは、周りの人々理解不足等から、社会生活の様々な場面で生きづらさを抱えている場合があります。市民に対し向けて、性的少数者に対する正しい理解を広めるための取組と多様な性に配慮した取組が求められます。	6新たな視点の導入 (1)性的少数者(LGBTQ)に関する取組
5	「夫婦・祖父母等が協力して」。茨城県では、パートナーシップ宣誓制度が進められており、今後、同性のパートナーシップ関係の元で子どもをもつ家庭も、想定される。「夫婦」という言葉についても、検討していただきたい。	ア	ご意見ありがとうございます。夫婦・祖父母等に限らず、子育ては家族の協力が不可欠となることから、表現を修正します。	次のとおり計画を修正します。 はじめて赤ちゃんを迎える方やその家族が協力して	基本目標3 基本施策①男性の家事・育児等への参加促進 事業名 ハバ・ママスクールへの参加促進
6	「女性の視点を取り入れた避難所運営」 「性的少数者の視点」についても取り入れることを、一つ検討していただきたい。(避難所のトイレ・相談等)	イ	ご意見ありがとうございます。 避難所は、避難してきた方たちが一定期間過ごす場所となりますので、災害時に弱者となりがちで、女性、子ども、高齢者、障がい者、性的少数者に焦点を合わせた避難所運営が重要と考えます。	次のとおり計画を修正します。 性別などによるニーズの違いを踏まえた	基本目標4 基本施策③男女共同参画の視点にたつた防災体制の確立 事業名 女性の視点を取り入れた避難所運営
7	「偏見をなくす」偏見はとても幅広い言葉。偏見も個々の価値観であり、偏見をなくす必要はないのかなとも感じる。偏見をなくすというよりも、差別や、当事者が傷ついてしまう言動をなくすといった、文言の方が良いのではないかと思います。	ア	ご意見ありがとうございます。 多様な性について、市民の理解を深め、互いに尊重する社会を目指すことが必要であると考えます。そのため、表現を修正します。	次のとおり計画を修正します。 市民や市内事業者に向けたセミナーや市職員への研修を開催する等、性の多様性について理解を深めることで市民一人ひとりが多様な性を尊重し、誰もが生きやすい社会を目指します。	基本目標4 基本施策④様々な生活上の困難や課題を抱える方への支援 事業名 LGBTQの理解促進等
8	「申請書類等における性別欄の記載見直し等」LGBTQに関する具体的な施策が、一例のみしか出されておらず、「等」で締めくくられてしまっており、具体的な施策内容が、よく読み取れなかった。「記載見直し」にかかわらず、窓口での対応のあり方、市内施設のトイレや更衣室、相談体制等、もう少し、具体的な施策について、広げていただきたい。	ア	ご意見ありがとうございます。 性的少数者への配慮した取組を検討するにあたっては、当事者が困っていることなどニーズの把握が必要と考えます。そのため、表現を変更します。	次のとおり計画を修正します。 ニーズの把握を行い、申請書類等の記載方法や誰もが利用しやすいトイレへの見直しなど多様な性に配慮した取組を検討します。	基本目標4 基本施策④様々な生活上の困難や課題を抱える方への支援 事業名 LGBTQに対する配慮促進
9	「LGBTQの概念が一般化しつつあり、」 「一般化」の言葉は、今まで特殊だったのかと誤解を生みかねないように思う。	ア	ご意見ありがとうございます。 今回の市民意識調査において、LGBTQの言葉の意味を知っている市民の割合が58.6%でしたので、表現を変更します。	次のとおり計画を修正します。 「LGBTQの概念が広まりつつあります」	1計画策定の目的
10	「リスクリング機会の提供を促進し、」は、「リスクリングの研修の機会の提供を」と思う。	ウ	ご意見ありがとうございます。 リスクリング(学び直し)は、多様な分野や実施方法などがあり、研修以外のやり方もあると考えます。		6新たな視点の導入 (2)災害等による危機においての女性を取り巻く状況に対応できる取組